函館のまちづくりを考える
はこまち通信
第12号
発行 ： 函館市地域交流まちづくりセンター
http://www.hakomachi.com/

TAKE FREE　ご自由にお持ちください！

もくじ

・特集 はこまち対談
「子どもの遊びに親立ち入り禁止」
・シーニックバイウェイ北海道
・川のない函館に日本２番目の水道敷設（その１）
・はこだてのＮＰＯ
・「ＮＰＯ」ワンポイント・アドバイス
～事業や活動を伝えるために～
・はこだて「まちのチカラ」サポート
素敵な出逢い－アクティブシニアの仲間たち－
・cafe Drip Drop「はじめまして」
・センター長のつぶやき

函館市地域交流まちづくりセンター主催　「はこだての魅力発見講座」受講生募集

函館山の歴史をめぐる

＝ 野の花と三十三観音をたずねて ＝

函館山を散策しながら、歴史を野の花・三十三観音をとおして、わかりやすく楽しく伝えます。

[日 程]4月20日(火)：申込期間4月5日(月)～11日(日)

＊函館山の各コースを5回にわけてめぐります。　他4回の日程等はお問合わせください。

[コース]　旧山道コース、宮の森コース、エゾダテ山コース
[めぐる観音]　1番～8番
[時　間]　午前10時～14時
[持ち物]　昼食・飲み物・タオル
[定　員]　20名（定員に達した場合は抽選となります）
[受講料]　300円（資料・保険料代）

[案内人]　横内 輝美(函館山愛好家)
[その他]　動きやすい服装でご参加ください。
雨天時は座学講座を行います。
キャンセルする場合はご連絡ください。

[詳細・申込]　電話　２２－９７００　か
直接　まちづくりセンター窓口へ

特集 はこまち対談

Part 11

子どもの遊びに親立ち入り禁止

赤石 哲明（あかいしてつあき）氏

〈PROFILE〉

1976 年　北海道函館市出身　北海道教育大学函館校小学校教員養成課程卒業　NPO 法人 NATURAS　代表理事　教育活動家　函館市青少年研修センター館長（2010 年 4 月より）函館を中心に子どもたちを対象にした自然体験型環境教育事業を提供する「なちゅらす」を運営。テーマは、「子どもたちに失敗をプレゼント」で、遊びを通しながら、様々な困難の乗り越えてもらい、その経験から、「たくましさ」「自立心」を育むプログラムを展開している。サケの観察会、カヌーキャンプ、くるくるバームクーヘンづくりなど体験学習会を実践している

今回は、子どもたちへユニークな体験学習を行っているNPO法人NATURAS（なちゅらす）の代表　赤石さんに、子どもたちへの思いや活動の原点についてお聞きしました。

丸藤：　ＮＡＴＵＲＡＳさんは、面白そうなことをたくさん行ってますね。

赤石：　子どもたちを対象にした体験学習をずっとやっています。屋外でバームクーヘンを焼いたり、恵山の噴煙の上に鍋をかけてカレーライスを作ったり、雪の上にテントをはって冬眠キャンプをしたりと季節に合わせ色々やってます。毎週末と、夏休みや冬休みで、年に５０種、７０回くらいかな。

丸藤：　タイトルも、中味もユニークなものばかりですよね。

赤石：　基本的に、自分のやりたいものばかりです（笑）。イベントは、自立させたいとか、たくましく育ってほしいという目的を達成するための手段と考えています。イベント自体が絶対ではなく、目的に向かって一番効果が高いものは何かを考えながらやっています。

丸藤：　体験学習の特徴は？

赤石：　親立ち入り禁止、です。子どもの頃、親が見てたいら思いっきり遊べなかったですよね。居心地がよくない（笑）。

丸藤：　親は心配しませんか？

赤石：　心配だと思います（笑）。そこを預けてもらう。参加した子には一通ずつ手紙を書きます。３～４ページの写真付きの活動記録も渡します。そういうことで信頼関係をつくってきました。子どもより、親に思いきってもらいたい。親が子どもを突き放すタイミングとして利用してもらいたいですね。親が突き放してこそ、初めて子どもはたくましくなると思います。

丸藤：　赤石さん自身が子どもの頃って、どんな感じでしたか？

赤石：　遊んでいたイメージが強いかもしれませんが、実は逆で、やりたいことがいっぱいあったのに何もできませんでした。なので、今、思いっきりやっています（笑）。

丸藤：　４月から、谷地頭にある函館市青少年研修センター（ふるる函館）の指定管理者になりますね。

赤石：　屋内をメインにした事業も行ってい

き、子どもたちに遊ぶことを体験させてあげたいなと思います。たくましさとか自立心をつかませたいという教育方針で、それを学ばせる場にしていきたいと思っています。施設管理は初めての体験なので、大変さもありますが楽しみでもあります。

丸藤：　ＮＡＴＵＲＡＳを立ち上げたのが、８年前の２５歳の時ですよね。

赤石：　３年間、小学校の臨時教員をしていて、学校のいわば主流の勉強はとっても大事だけど、それ以外に副流というか枝分かれしたものがたくさん必要じゃないかと思ったんです。学校は組織が大きいので細やかな動きをとるのは難しい。で、反抗期がまだ続いていたので、「自分のやりたいことをやる！」と学校を飛び出したのがきっかけです。最初は大変でした。給料は一気にゼロに。将来の保障も消える・・・

丸藤：　ずっと継続してやっていて、しかもそれで食べているのは凄いですね。

赤石：　子どもを預かる身としては、全責任を持ってやりたいと思っています。今までに、自主事業の中だけでも４～５千人の子どもたちに体験学習をしてきました。一番初期の頃の子どもは、もう大学生になってます。時々、手紙が来ます。子どもの頃わんぱくにやり過ぎちゃって、自分のやりたいことを抑えきれない人間になってしまったみたいです（笑）

丸藤：　凄い人数ですね。今の子どもたちの印象は？

赤石：　経験が少ないですね。でもその分、とても純粋です。便利になり過ぎて、苦労をしたくてもできない。蛇口をひねるとか醤油のパックを開けるとか、私が無意識の中で学習してきた手先の使い方などが、今の子どもたちはできなくなってます。

丸藤：　それで、社会の色んな恐ろしいことに直面すると厳しいですね・・・

赤石：　でも、純粋だから、その苦労を楽しむ子どももたくさんいますよ。

丸藤：　将来の夢は？

赤石：　子どもたちの教育の質を高める場を、どんどん増やしたいです。具体的には、函館の子どもに色んなものを見せてあげたい。良いものだけでなく、悪いものも。とにかく、比較できるものを比較させてあげたいです。そして、函館から道内、うまくいけば道外。さらに海外でも何かやってみ　たい。

丸藤：　今まで一番遠くに行ったのは？

赤石：　襟裳とか富良野、海を越えたのは奥尻ですね。僕自身、日本が恵まれていることを十分に理解していないと思うんですけど、今の子どもたちに日本がどれくらい恵まれているか見せてあげたい。良い点も悪い点も知らないともったいないですから。

丸藤：　最後に、親や子どもたちへメッセージを

赤石：　親や子どもたちには、思い切ってやってもらいたいです。それが成長につながります。思い切る、ということが重要だと思います。

函館市青少年研修センター（市内谷地頭町５番 14 号）
＜開館時間＞ 9：00～21：00
＜休館日＞ 毎週月曜日、国民の祝日
（月曜日が祝日の場合は翌日休館）
＜連絡先＞ 電話 0138-23-5961 FAX 0138-23-1315
＜使用料＞ １人１泊 小・中学生 200 円
高校・学生・勤労青少年 400 円
その他 1,000 円
体育館・研修室・和室（別途料金要）なども使用できます。

＜聞き手＞
函館市地域交流まちづくりセンター
センター長

丸藤 競

まちづくりセンター１階のおすすめ散策ルートでは、函館・大沼・噴火湾ルートの旬の情報をご紹介しています。

シーニックバイウェイ北海道
函館・大沼・噴火湾ルート

平成22年2月に実施したシーニックdeナイト2010についての結果を報告します。

○シーニックdeナイト2010

シーニックdeナイト2010は、道路沿線などに手作りのキャンドルを設置・点灯する地域参加型の活動です。今年で4年目を迎えた活動は、以下の場所で実施されました。

・2月1日（月）～4日（木）　17時～
　函館市地域交流まちづくりセンター
・2月6日（土）　18時～
　大沼国定公園、南茅部公民館（※強風のため南茅部公民館入口に設置）
・2月12日（金）　18時～
　道道函館上磯線
・2月13日（土）　17時半～
　函館新道
・2月13日（土）　18時半～
　宮川神社周辺（函館市館町）

▲函館新道

▲宮川神社

▲大沼国定公園

また、今年はトップツアー株式会社函館支店のご協力も頂き、一般客などを対象とした有料バスツアーを実施しました。シーニックバイウェイの活動は、環境にも配慮した活動も行っているため、バスの移動によって排出されたCO_2をオフセットする、カーボンオフセット型ツアーとして実施しました。ちなみに、今回のバスツアー実施に伴うオフセット量は「ブナ3本分」となり、今年の10月頃にシーニックの森づくりを行っている「きじひき森林公園」にブナの苗木を代行植樹します。

▲集合場所（亀田支所前にて）

▲シーニックバイウェイ北海道のロゴマークの作成及び点灯（函館新道にて）

▲松前神楽「鈴上げの舞」（宮川神社にて）

川のない函館に日本２番目の水道敷設（その１）

中尾 仁彦　西堀病院理事顧問、箱館歴史散歩の会主宰
第１回 函館検定 上級試験合格

今ではまったく想像できませんが、昔函館は早朝に天秤棒で水売りが商売になるほど深刻な水不足の町でした。飲料水確保のためには河川の存在が必要不可欠でしたが、当時の函館は川がまったく存在せず、函館山からの湧き水とわずかな井戸に頼るしかなく慢性的な水不足の状況でした。その函館が明治２２年に日本で２番目に水道を敷設し、水不足の解消に至ります。それまでの経緯をご紹介します。

新築箱館奉行所も水不足

蝦夷地を直轄した江戸幕府は、享保３年（１８０３年）に現在の元町公園付近に箱館奉行所および役宅を新築します。函館山山麓は岩盤が硬く、つるはしなどの粗末な装備では井戸掘りに困難が伴い、１ヶ所掘るも水量不足をおこし不自由な生活を強いられます。そこで奉行所役人・富山元十郎があちこち探したところ、函館山に清泉を発見、かけいを架けてこれを引きます。奉行・羽太正養はその功を不朽に伝えるため「富山の泉」と名付け、碑を建て賞賛しました。

高田屋嘉兵衛と掘り抜き井戸

文化３年（１８０６年）、全戸数の約半分の３５０戸焼失の大火があり、大町にあった豪商・高田屋嘉兵衛の店舗も焼失します。嘉兵衛は翌年大阪から井戸掘り職人を呼び寄せ、自費で７ヶ所の井戸を掘り、また手押しポンプを各町内に寄贈します。住民は「高田屋の井戸」と呼び、飲料水はもとより初期消火に必要な水の確保に多大な貢献をしました。その後明治年間に井戸は４００ヶ所に増えるも水不足は一向に解消しませんでした。

水不足を解消した願乗寺川

安政６年（１８５９年）、願乗寺（西別院の前身）の僧侶・堀川乗経は本山から多額の資金援助を受け、当時函館湾に注いでいた亀田川を、中の橋の先から４キロの人口の川（堀割）を掘り、現在の銀座通りにあった既存の堀割に注ぎます。飲料水および消火用水が確保されたため、川の流域に住民が住み始め、町の趨勢は徐々に東部方向へと広がりを見せていきます。この川は正式には新亀田川ですが、住民は感謝を込めて「願乗寺川」と呼びました。しかし人口増により汚水が川に流れ込み、明治１９年にコレラによる死亡者は約９００人発生します。さらに上流から流れた土砂が函館湾を浅くしたため、赤川から仮設水道を準備の上、明治２１年に埋められたのが現在の高砂通りです。

明治１２年の大火と幻の水道

コレラの発生は明治１０年から始まり、水道の敷設が急務でした。明治１１年、区長（現市長）・常野正義は鉄管により亀田川の水を函館招魂社（現函館護国神社）付近まで引き、水溜池に貯え各町に分配の案を計画します。借入金の返済は「函館港の輸出額に一定の歩合金を課す」方式を常野は開拓使長官・黒田清隆に提案、熱弁を振るって説得しました。黒田は現実的案と評価し、明治１２年に幌内炭鉱の鉄道敷設をした英国工兵大佐・クロフォードとアメリカ留学帰りの土木技師松本壮一郎に水道計画の調査を依頼します。給水人口５万人の水道報告書が函館市庁と函館県令・時任為基に提出されたのが第１回起業案です。一方函館区独自の課税案に反対も起こり、その最中函館は不幸にも前年の９５４戸を上回る２３００戸焼失の連続大火に見舞われます。当然復興が最優先され水道敷設は残念ながら幻に終わりました。大火がなければ横浜より先に水道が敷設されたかもしれません。

後藤新平に要請、機運高まる

明治１６年の第２回起業案は、デフレによる資金不足の理由で政府の許可は出ませんでした。明治１８年に函館検疫所の設立準備のため来函した後藤新平（後東京市長、内務大臣）に、県令時任為基は、検疫所の土地は函館県が誠意をもって確保するので、その代わり水道計画に多額の援助をと強く要請します。総費用の半分を函館区の公債発行で負担する明治１９年の第３回起業案は、区（北海道のみ市制が見送られていた）としての公債発行は法律で認められないとまたもや不許可、住民は落胆を隠せませんでした。しかし函館区の熱意は徐々に政府を動かし、水道敷設の機運は高まりを見せます。

はこだてのＮＰＯ

函館には現在約400以上の市民活動団体があり、実にさまざまな活動が行われています。その中からピックアップして毎号ご紹介しています。

01 ＮＰＯ法人 全国精神障がい者 地域生活支援センター

（通称：全精援）

（指定障害福祉サービス事業所 就労継続支援Ｂ型「地域サービスセンターはこだて」）

代 表 者 ： 理事長　能登 正勝　　http://mental.mls-j.com/
事 務 局 ： 〒040-0014 函館市中島町12番15号　TEL 0138-51-0026

障害者も気軽に地域の中で生活し、地域の人と普通に交流できる。そんな地域コミュニティを作りたいと、ＮＰＯ法人全国精神障がい者地域生活支援センターは、障害を持つ当事者が中心となり運営しています。平成20年11月から現在の中島廉売商店街に事務所を引越し、中島れんばい横丁等の事業を開始。就労継続支援Ｂ型事業所として「地域サービスセンターはこだて」を、平成21年11月に開設し、看護師、介護 福祉士、栄養士、調理師、ヘルパー２級の専門職を配置し、一般雇用が困難な身体、知的、精神障害者の就労支援事業を行っています。仕事

内容は商店街と協力して受託している事業や、中島れんばい横丁の運営・設置・屋台での販売、資源回収して分別、切手の整理、名刺印刷等を行っています。

※平成22年５月より日本障害者・高齢者生活支援機構に法人名が変わります。

02 函館すぷれっと

代 表 者 ： 佐藤 尚子
事 務 局 ： 〒041-0806 函館市美原４丁目13-20　TEL 0138-46-4455

函館すぷれっとは、しょうがいのある人も、しょうがいのない人も、みんな一緒に地域で楽しく生活するために「心のバリアフリーを広げよう」という趣旨の会です。たくさんのイベントや町づくり運動（函館駅前のバリアフリー化・図書館や空港の車椅子駐車場と市電や函館バスのバリアフリー化）に参加しています。

＜主な活動の内容・活動状況など＞
・地域まちづくりのイベントに参加、出店
・地域の作業所のバザー出店
・公共交通へのアドバイス
・街へ車イスの子供たちと出かけて、ユニバーサルな街にしていく活動

03 函館日中友好協会

代 表 者 ： 東出 隆司
連 絡 先 ： 事務局　〒040-0013　函館市千代台町 14-8
TEL/FAX 0138-51-0041

日中友好協会は全国組織であり、東京に本部が、北海道には 22 の地域にその組織があります。1950 年、日中友好を願う人々とともに結成された国民的大衆組織です。政党、思想、信条にこだわらず、中国に関心があり友好を願う方であれば何方でも参加戴けます。函館日中では、機関紙「函館日中だより」の発行、中国語教室の運営、在函留学生との交流、中国のお正月を祝う「春節の会」、野外レク、中国料理教室、講演会、座談会、中国映画上映会、中国からの視察団受け入れ、などの活動を通して交流をしております。

協会に加入戴きますと、本部より中央機関紙『日本と中国』（月 3 回発行）が郵送され、全国の交流の動きをお知らせすると共に、地域の活動に参加いただけます。会費は 1 ヶ月 1,000 円。

函館日中友好協会にはブログがございます。活動の様子などをご覧いただけます。
http://hakodatenittyuu.cocolog-nifty.com/blog/
ホームページは事務局『隗』のホームページをご覧下さい。

函館日中、中国語教室（年間・毎週 1 回、2 時間）

04 函館和装研究会

代 表 者 ： 油川トク
事 務 局 ： 油川千絵　函館市駒場 6-5　TEL 0138-51-6784

活動の目的：
日本固有の着物の普及を目的として、無料の「浴衣きつけ講習会」「振袖きつけ講習会」の開催や「きつけ教室」の活動を行っています。一人でも多くの方々に日本文化着付けの普及に応援して、活動していく方針です。

主な活動内容、活動状況など：
①函館港まつり　1 万人パレード
　市役所のゆかたの着つけ
②成人祭にて着つけ（市民会館）
③青年センター　着付教室
④野外劇
⑤十二単衣の着つけ

附属社会学級、一日サークル“ゆかた”

十二単衣は附属社会学級教室の一日サークルです

05 函館花いっぱい道づくりの会

代 表 者 ： 折谷久美子
連 絡 先 ： 函館市富岡町 1-5-11　TEL 0138-45-7576　FAX 0138-45-7701

函館新道沿線（石川・桔梗地区）の歩道の清掃美化活動（植栽維持）を通し、地域住民や観光客に、きれいな道を通って喜んで頂けることを目的に活動しています。

＜活動内容＞
平成16年4月発足。現在27団体で構成。平成18年「北の道普請を育てる会」より「優秀賞」、「北海道みち百選（地域づくり部門）」受賞。平成19年「北のまちづくり賞奨励賞」、平成21年北海道開発局より「道路功労者感謝状」授与。
毎年、6月に植栽し11月に花苗撤去。冬期間は歩道の砂撒きやアイスキャンドルナイト（シーニック de ナイト）を実施しています。平成21年度は、シーニックバィウェイやガーデンアイランド北海道、環境サミットなどに参加し、おもてなしの心で活動しています。

06 北海道アイヌ協会函館支部

代 表 者 ： 加藤敬人
連 絡 先 ： 事務局　Mobile: 090-1389-8445

私達、アイヌ協会函館支部設立時より、「イランカラプテ」の精神でアイヌ文化の伝承と発展に尽くしたいと思っています。そして、いにしえより伝え、アイヌ文化を函館の観光、教育、文化、その他、色々な所でいかされていけば幸いかと思っています。現実に今現在市内で活動しているアイヌ民族に興味を持った人達のコンサートにスタッフとして活動しています。

＜活動内容＞
①アイヌ文化を通して観光、教育、文化等への参加
②アイヌ民族と日本民族の共存共栄を計る
③アイヌ文化の保存、伝承及び発展を計る

※「イランカラプテ」アイヌ語で「あなたの心にそっとさわらせて下さい。」という意味です。“おはよう”とか“ごきげんよう”とかあいさつに使用していた言葉です。

「ＮＰＯ」ワンポイント・アドバイス

～事業や活動を伝えるために～

組織を育てるコツ　その２

ＮＰＯ活動を行っている団体にとって、地域や社会から存在感や信用を得られるようにしていくことが、大きな課題となっています。そのためには、組織として事業を継続し拡充していくチカラが必要です。ここでは、そのコツについてお伝えします。

❶ 事実を見るチカラをつけましょう！

まず、自分たちの強み・弱み・能力や可能性・危険性などを、事実をもとに整理してみましょう。強みと機会を生かし、弱みを克服していきながら、中期計画実行のための展望と戦略をたてていきましょう。

❷ 計画するチカラをつけましょう！

計画とは、目標を実現するための要素や流れをまとめたものです。

「計画の６Ｗ３Ｈ」、つまり、「なぜ？」「誰のために？」「どこまで・どの程度まで」「何を」「どのように？」「いつ？」「どこで？」「誰が？」「いくらで？」という視点から考えると、計画をたてやすいです。

❸ 協力を募るチカラをつけましょう！

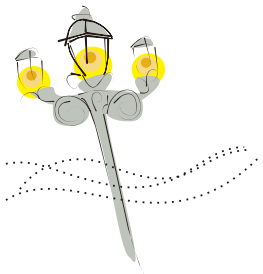
相手を強く意識したチラシ作りやニュースレターの活用はもちろん、「団体の年表」や「Ｑ＆Ａ集」を用意しておくと、協力者を募りやすくなります。また、報告書の活用や、会員の思いを把握しておくことも、協力者を増やすためには有効です。

❹ 体制を整えるチカラをつけましょう！

ＮＰＯにとって最大の資源は「ヒト」です。そのため、新しいスタッフの受け入れ態勢を整えたり、自分たちに求められているニーズに応えていくための適材適所の役割分担が必要になります。また、「お礼状」や、ちょっとした「ご褒美」、「ありがとう」の一言など、心に響く感謝も大切です。

❺ 自主財源率を高めましょう！

自主財源とは、「会費」「寄付」「事業収益」のことです。補助金や助成金、委託費などに頼るのではなく、年間予算の半分程度は自由に使えるお金（自主財源）になるようにしましょう。



❻ 協働し、しくみを組み立てるチカラをつけましょう！

どんな団体でも、自分たちだけで社会の問題を解決することはできません。自分たちの強みと、他の団体の強みを掛け合わせることで、活動の継続性も広がりもできていきます。他のＮＰＯ、企業、行政等と力を合わせ、相乗効果が出せるようにしていきましょう。

相談希望の方は、まちセンへ

まちづくりセンターでは、上記についてもっと具体的な相談やチェックシートの例なども用意しています。お気軽にご相談ください。

参考資料：［ＩＩＨＯＥ］　人と組織と地球のための国際研究所発行『新版　組織を育てる１２のチカラ』

まちのチカラになりたい、
まちのチカラを求めたい、
まちのチカラを応援したい

はこだて「まちのチカラ」サポートデスク

アクティブシニアの活躍も応援！

柴田 修平 さん

「ムックリ横内とその七味」 大番頭

素敵な出逢い - アクティブシニアの仲間たち -

函館ベイエリアで小さな食堂を営んでいる。「オリエンタルキッチン」と言う。ユニオンスクエア明治館から当地へ移転して四年になる。「まちセン」のスタッフの皆さんには大変ご贔屓にしていただいている。有り難い話である。

店の BGM は大好きなカントリーミュージックだ。好きな音楽に囲まれて働くのは心地が良い。店の移転記念に松前のカントリー兄貴、K 氏から秘蔵の CD を 30 枚も頂いた。開店時から閉店まで「♪♪チーチャラ　♪♪チーチャラ.....」だ。毎日この音楽ではお客様にとってはきっと耳障りだった思う。

とある日曜日の午後，ひょっこり来店され、クラッシックビールを二杯立て続けに飲み干されて帰られた。次の日曜日、また現れた。クラッシックを二杯「ぬるい？ジョッキ」で飲まれ、「カントリーいいですね。楽器やるんですか？」、「ムックリ横内」さんとの出逢いである。ブルーグラス、カントリー、ナターシャセブン、二人の音楽談義が続いた。「一度、ワークショップに来ませんか？フィドルの練習も出来ますよ」、私の心の中では「アイヌの民族音楽はあまり.....？」大変な誤解であった。

ピカピカのフィドルを持参してワークショップに初参加である。緊張の小学校一年生だ。なんと、ムックリさんは函館フォーク界の大御所であった。ナターシャーセブンの「107 ソングブック」は全部歌えるという。恐ろしい人と知り合いになってしまった。

60 才を過ぎてからの楽器の練習は大変である。しかもフィドルのコーチはいない。ムックリ氏からお借りしたビデオだけである。一生懸命やるしかない。

ブルースハモニカ「まちセン」の E 藤氏、フラマンとギターは移住者編集者 F 島氏、ギターテクニックの天才青年 M 口氏、キーボードは宝石デザイナーの M 野女史、K 田

氏のバンジョー、しんがりには「まちセン」の人気者S田石さんだ。「ムックリ七味」の始まりである。

昨年9月の「バル街」ストリートミュージックでフィドルデビュー、赤恥ものである。仲間が励ましてくれた。有り難い。12月の「まちセンクリスマス」、なんとか皆についていったが冷や汗が出た。また仲間が励ましてくれた。本当に有り難い。

フィドルの練習のため、チューニングが同じフラットマンドリンを買った。猛練習だ。指先が大きなタコになってしまった。タコが破れて冬の冷たい水が指に痛い。

「ムックリ七味」のごま粒か、けし粒くらいは目指している。この春に二年生に進級出来るか心配である。

「♪♪おいでよ僕のベットに.....」「♪♪古いコートは捨てて僕の胸でおやすみ.....」「♪♪別れーのときがきたー.....」何とも怪しいシニアたちである。しかも昼間から大音響でのワークショップである。やさしい「七味」の仲間と「まちセン」スタッフにはいつも感謝している。理解のあるセンター長には頭があがらない。

いつでも「ムックリ七味」の仲間たちは胸を張って自慢したい。横内氏との出会いを作ってくれた「秘蔵のCD30枚」のカントリー兄貴は、1月6日、肺がんで天国に召された。「今度落ち着いたら一緒にコンサートやろうね。昔の仲間も呼んで.....」我々の口癖だった。松前の 工藤洋万さんに心から感謝を申し上げる。

「♪音を楽しむ♪」まさに音楽である。今の自分にとって最高である。さぁ、アクティブシニアたちは今日も行進だ。

http://www.hakomachi.net

まちセン3階にて「はこだて『まちのチカラ』サポートデスク」を開設しています。
窓口は、年中無休　9：00～17：00　地域のチカラを求めています。

「はじめまして」

cafe Drip Drop 米田尚子

予想外に寒くて雪が多かった冬がゆき、陽射しがすっかり春ですね。
はじめまして！cafe Drip Dropです。
オタジィラさんとバトンタッチして、4月から1階喫茶コーナーを担当いたします。十数年にわたり、自家焙煎のコーヒーを販売してきました。
この、ちょっぴり深煎りの香り高いコーヒーをメインに、ホッとくつろげるお飲み物やひと手間かけた軽食をご提供いたします。
これまで、さまざまなライブや、アースデイイベントなどをお手伝いさせていただき、まちセンは通いなれた場所です。

これからここで毎日を過ごせることがうれしく、どんな出会いが待っているのかとワクワクしてきます。
楽しさのアンテナをピンと張って皆さまをお迎えしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

cafe Drip Drop

カフェOPEN ：10：00－18：00　定休日：水曜日
ホームページ： http://handpick.cafe.coocan.jp/

センター長のつぶやき

丸藤　競

まちづくりセンターがオープンしたのが、平成１９年４月１日。あっという間の三年間が過ぎました。『はこまち通信』の創刊号を読み返すと、「初めてのことばかりで、悪戦苦闘、試行錯誤の毎日です」と書いてあります。

今でもそれは、あまり変わりません。常に何か初めてのことに取り組み続ける姿勢と、悪戦苦闘や試行錯誤ができなくなってしまったら終わりだという信念を大切にしながら、毎日バタバタやっているからです。

同じく、私の夢として「できるだけ多くの方の力で、まちづくりセンターを素敵な色に描き上げていきたい！」とも書いています。お陰様で、この間、本当に多くの方に利用していただき、まちセンは日本中のどこにもないオリジナルの素敵な色が描かれています。特定の色に染まるのではなく、毎日新しい美しさが加わっていくような色。変化と居心地の良さが合体したようなみんなの色です。

センターもスタッフも私もこの三年でずいぶん成長させてもらいました。これもひとえにこれまで利用していただいた多くの皆様のおかげです。

平成２２年４月から、私たちＮＰＯサポートはこだてグループが、引き続き、第二期目の指定管理者として皆さんと一緒になってまちセンを創り上げていくことになりました。

今まで以上に居心地を良くしたい。まちに飛び出し現場を見て歩きたい。色んな立場の人と仲良しになりたい。様々な知識を身につけたい。色んなことを知りたい。色んなことを伝えたい・・・まだまだ、やりたいことがたくさんあります。

私たちも、今まで以上に成長できるよう頑張ります。

これからも、よろしくお願いいたします。

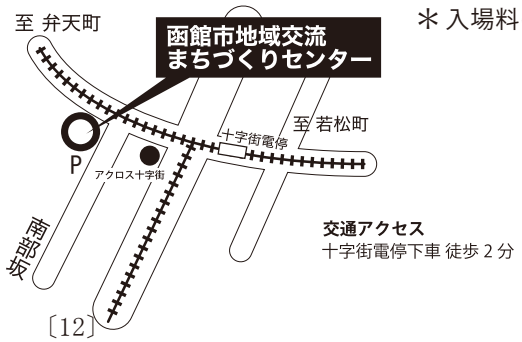
函館市地域交流まちづくりセンターは、
ＮＰＯやボランティアなどの活動の場、
市民交流の場、
地域情報の発信の場
としてさまざまな活動にご利用いただけます。

市民活動やＮＰＯについて相談したい方
市民活動やＮＰＯの情報が欲しい方
市民活動やＮＰＯの会報やチラシを作りたい方
打ち合わせ場所がほしい方
研修会や展示会場を探している方
観光情報や地域情報が欲しい方
ご利用をお待ちしております。

開館時間：　午前９時～午後９時
休 館 日：　年末年始（12/31 ～ 1/3）＊器材点検のため月１回程度臨時休館する場合があります。

フロア	区分	ご利用料金		備考
		単位	金額	
市民交流フロア／2F	研修室（A，B）	１室１時間までごとに	500 円	24 人利用可
	フリースペース	１日につき	10,000 円　＊	約 272 ㎡
市民活動支援フロア／3F	会議室（A，B）	１室１時間までごとに	300 円	24 人利用可
	ロッカー（大）	１個１ヶ月につき	400 円	
	ロッカー（小）	１個１ヶ月につき	200 円	
駐車場		２時間無料、超過 30 分までごとに 100 円 駐車場は、当センター裏側、入り口が南部坂沿いにあります。		

＊入場料のあるもの、物品販売などは別の利用料金となります。おたずねください。



函館市地域交流まちづくりセンター
〒040-0053　函館市末広町４番19号
TEL 0138-22-9700
FAX 0138-22-9800
E-mail toiawase@hakomachi.com
URL　http://hakomachi.com/